

聾学校における社会参加と自立を目指した情報携帯端末の活用

ー ユビキタス時代における聴覚障害生徒に対する学習活動支援 ー

宮城県立ろう学校 教諭 中村好則

nakayosi@miyaro-s.myswan.ne.jp

キーワード：聾学校、聴覚障害、社会参加、自立、情報携帯端末

1. はじめに

学校や家庭にも情報機器やネットワーク環境が普及するとともに、家電製品を始め生活に必要な様々なものにコンピュータが組み込まれ始めユビキタス時代を迎えつつある。このような時代に、聴覚障害生徒が社会参加し自立していくためには、ただ単に情報機器が使えるだけではなく、情報に関する技能や知識、考え方を理解し、それらを活用する能力や情報社会に積極的に参画する態度を身に付けることが必要であり重要である。しかし、聴覚障害生徒は、コミュニケーション障害や情報障害を有するだけではなく、日本語の習得や抽象的な概念及び論理的な考え方の理解などにも課題があり学習活動には様々な工夫や配慮が必要で、これらのことを達成することは決して容易なことではない。一方、近年情報携帯端末や携帯電話が聴覚障害生徒にも普及し、それらがコミュニケーションや情報収集のための道具として活用されている。特に、最近の情報携帯端末は、電子メールやインターネットはもちろん、様々なアプリケーションも活用でき、パソコンと同様な機能を有し、学習を支援する道具としても活用できる可能性がある(中村 2002)。しかし、聾学校ではそれらを活用した実践研究はほとんど見られない。情報携帯端末は聾学校でこそ活用されるべきである。

2. 研究のねらい

本研究では情報携帯端末に着目し、聾学校生徒の社会参加と自立を目指した情報携帯端末を活用した学習活動支援のあり方を検討した。本研究のねらいは、(1) 聾学校の生徒が情報携帯端末を自在に活用し学習活動や学校行事の目標を達成し自己実現することを支援することと、(2) そのための情報携帯端末を活用した学習内容と方法を検討することである。これらのねらいを達成することで、聴覚障害生徒がユビキタス時代に情報機器を十分に活用して社会参加し自立できる能力や態度を身に付けることを支援できるものとする。

3. 研究の概要

実践対象クラスを専攻科第1学年に設定し「自立活動」「情報」などの授業で実践した。「情報」では情報携帯端末の使用法や電子メール、Web作成などの情報携帯端末の利用方法の観点から指導を行った(写真1)。「自立活動」では社会参加と自立を目指した情報携帯端末の活用の観点から指導を行った(写真2)。例えば、職場体験や野外体験学習、他校との交流学習で活用した。その他には「数学」や「国語」「英語」などの教科でWeb教材や辞書、インターネットの利用を行った。また、授業だけではなく、実践対象クラスの「学級指導」においても、学習活動を支援するために学級通信及び学年通信の配信、学級用Webの作成(図1)、電子メールによる教育相談を行った。本研究で利用した情報携帯端末はZaurus(SHARP)を、通信環境はKWINS(KCCS Wireless IP Network Service)を利用した。



写真1 情報携帯端末



写真2 「自立活動」での活用



図1 学級用Web

4. まとめと課題

情報携帯端末を活用した学習に対するアンケート調査からは、「分からない漢字やことばなどをすぐに調べることができるので便利である」「コンピュータ室に行かなくてもインターネットが使えるのがよい」「このまま使いたい。できればほしい」などの肯定的な意見が多く、学習に対する主体性や意欲の向上が見られた。一方、「メールは、携帯電話の方が便利だ。携帯電話のようにすぐにわかるといいのに」「画面が小さく長時間やると疲れる」などの否定的な意見も見られ、携帯電話やパソコンとの連携については今後の課題である。

【参考文献】

- 中村好則(2002) 聾学校における情報携帯端末を活用した指導の考察, 文部科学省・経済産業省平成13年度Eスクエアプロジェクト成果発表会資料(東京), pp.96-97.
- 中村好則(2002) 聾学校における情報携帯端末を活用した指導の可能性とその効果, 日本教育工学会論文誌「日本教育工学雑誌」, 第26巻第3号, pp.265-270.